

精密金型の大垣精工

東彼杵の工場竣工

東彼東彼杵町八反田郷の

も務めている。

工業団地「東そのぎグリーンテクノパーク」で建設が進んでいた「大垣精工」（岐阜県、上田勝弘社長）の長崎工場が完成。23日、現地で竣工（しゅんこう）式が開かれた。

同社は各種電機・電子機器用の精密金型製造などを手掛け、現在はパソコンやDVDなどのハードディスク用精密部品を中心に業績を伸ばしている。上田社長

は金型製造業者の全国組織「日本金型工業会」の会長

同テクノパークの用地約3200平方メートルを県から貸借し、延べ床面積約1500平方メートルの鉄骨2階建て工場を建設。投資総額は約9億円。1台当たり月産400万〜500万個の生産能力があるプレス機を4台設置し、当面の間売り上げは6億円を見込む。5月から本格操業し、来年早々にもプレス機を4〜5台追加する計画。

同社はこれまでに長崎工場の従業員として県内の大

卒、高卒者計18人を採用。今後も県内で募集し、最終的には45人程度に増やすという。

竣工式には紙谷修町長や企業関係者ら約150人が出席し、機械や作業工程を見学。上田社長は「思った通りの工場ができた。長崎は人材が優秀で、今後の成長が楽しみ」と話した。

（中山雄一）



精密部品の製造工程について説明を受ける紙谷町長（左）＝東彼杵町、大垣精工長崎工場